

デートDVについて知る

DVは若年層世代のカップルでも起きており、これを「デートDV」といいます。

『男女間における暴力に関する調査』（平成29年度内閣府）では、交際相手から被害を受けたことがあったと回答した女性が21.4%、男性が11.5%でした。

また、滋賀県『令和元年度男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査』においては、夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力を直接経験した・まわりに経験した（している）人がいると回答した人は、男性では29.3%、女性では37.2%でした。DVはとてもデリケートな問題で顕在化しにくく、当事者だけで解決するのは困難なため、周りの人の協力が不可欠です。

児童・生徒がお互いを尊重した、よりよいパートナーシップを育むために大人が理解しておきたいことについて、NPO法人レジリエンス代表の西山さつきさんにZoomオンラインにてご講演いただきました。

7月29日（水）開催

『なぜ今、学校におけるデートDV防止教育が必要なのか ～子どもたちの未来を守るために～』



◆プロフィール◆

2003年、「レジリエンス」結成時からDV・デートDVに関する講演、研修会の講師として活躍。全国各地で、DV、デートDV、心の傷つき、トラウマ、そこからの回復などについて、当事者、当事者の家族・友人、支援者、学生、教育関係者、さまざまな立場の人々に有用な情報を伝えている。共著に「傷ついたあなたへ」「傷ついたあなたへ2」（梨の木舎）、「子を、親を、児童虐待から救うー先達32人 現場の知恵」（公職研）など ※当センター図書・資料室でも貸出しています。

DVはとても身近な問題です

女性の約3人に1人、男性の約5人に1人は配偶者からの暴力の被害経験があります。（内閣府調査）“3人中1人”と考えると、DVはとても身近な問題です。自分自身が経験するかもしれない、友だちが経験する（している）かもしれない、家の中で起きているかもしれません。子どもたちが相談する先は友だちが最も多いのに、デートDVの理解がないために、友だちがよかれと思ってした誤ったアドバイスにより、さらに被害を生じさせてしまうこともあります。また、子どもたちがこのような講座に参加しにくかったり、自分では相談先や正しい理解のための情報が得られなかったりして被害を大きくしてしまうことも懸念されます。インターネット等により様々な情報があふれる中、子どもたちに正しい情報を伝えられるのは「学校」なのです。そのために、まずは子どもに関わる大人がデートDVについて知り、伝えていくことが大切です。

デートDVの問題点

- ・DV防止法が適用されない。➤DV防止法は夫婦間、同棲している恋人が対象。
- ・簡単に別れられる、たいしたことではないと軽視されがち。➤DV、デートDVも別れるのは容易ではありません。
- ・専門の相談機関が少ない。➤若年層にとっては電話などでの相談に対するハードルが高くなります。
- ・虐待などと併発していると、より複雑になり、発達段階における脳や身体に与える影響が大きい。
- ・進路の選択に影響する。
- ・性に関する正確な情報にふれる機会が少ない。➤性に関することをタブーにしてしまうと、性暴力被害にあったことをSOSとして発信できない。なぜなら、性＝タブーだから。

どんな人が被害者になるのか

DV被害は特殊な人が受けるわけではありません。世の中に暴力という手段がある限り、被害者は常に存在し、だれでも被害者になる可能性があります。

DVとは、パワーとコントロール

力（パワー）を使って相手を自分の思い通りに動かす（コントロール）、それを強化するための手段が「暴力」です。暴力は身体的なものだけではなく、繰り返される暴力により、被害者はどんどん内面の価値観がさがって気力や思考力を奪われることがあります。

尊重がない愛情は LOVEじゃない！

尊重がある関係において、暴力が選択される必要はありません。自分の価値観を押し付ける関係は、支配と被支配の関係になってしまいます。尊重を増やせば、暴力はなくせるのです。



恋愛幻想 ～束縛されたい女の子～

束縛されることをうれしい、愛されていると感じる人も少なくありません。日々の生活の中で、ドラマや歌、本などからシャワーのように浴びている「恋愛」のイメージが束縛＝愛情だと勘違いさせてしまいます。「現実はちょっと違うかもね。」とメディア・リテラシーの力をつけ、ちょっと立ち止まって考えることも大切です。「束縛されたい」の本音は、「大事にされたい」、「愛されたい」という気持ちなのではないでしょうか。

ほどよい距離感を

物理的距離と心理的距離がいつもぴったりで、2人の恋愛関係にどっぴりつかって、恋愛の中で自分を満たそうとするよりも、ほどよい距離感を保ちながら、恋愛も”一部“として、恋愛以外の関係性も大切にできる、自分の内側で自分を満たしていける方法を見つけることで、尊重のあるいい恋愛ができるのです。



暴力はあってはならない ～デートDVを予防するために大切なこと～

「暴力は悪いけど、暴力をふられるあなたにも悪いところがあるんじゃないの？」

悪いところがあったにせよ、暴力ではない解決方法は必ずあります。「暴力」という手段を選んだことがいけないのであって、被害を受けた人は悪くありません。

「暴力をふるっていい理由はひとつもない。暴力をうけていい人はいない。あなたは悪くない！」

と周りの大人が目につけ、いい関わりをすることで、DVが及ぼす子どもへの悪い影響を軽減することができます。そして、助けを求めることで状況を変えられるんだという「学び」が、トラウマ経験を糧にして成長し、その後のよりよい生き方につながります。

デートDV、DVの仕組みはいじめや虐待にも共通します。また、その回復のための情報や社会ができることにも共通点があります。これらはなくなったら終わりではなく、その後表面化するトラウマ(心の深い傷)があるため、①予防すること、②介入すること、③回復していくためのその後のケアの3つが大切です。

暴力をふるう原因は、「暴力をふるっていい」と思っていることであり、どこかでそう学んだということです。予防教育の中で「暴力でない方法」を学べるようにすること、非暴力の尊重があるいい人間関係を学べるチャンスを逃さないようにしてください。また、大人は「子どもの恋愛だからすぐ別れられるだろう。」と思いがちですが、子どもたちも別れられなくて、何度も別れてはよりを戻すことがあるということも知っておかれるとよいでしょう。

周囲の人ができること

- ・大人がデートDVの知識をつけ、デートDVに気づき、見抜く。
- ・外部の組織やサービスなどとつながりをつくっておく。(デートDV対応の相談機関、警察、病院など)
- ・学習の中で、デートDVを取り上げていく。また、日常の中でも恋愛幻想や暴力についてふれていく。
- ・DVに関する本、ワークブック、DVDなどの教材を用意する。
- ・デートDV予防教育はDV家庭の子どもたちへの介入も含みます。

DVがあったらどうしたらいいのか、DVをしていたらどうしたらいいのか、家の中にDVがあったら…「自分のせいだ」と責める子どもたちに、あなたのせいじゃない、あなたの問題ではない、あなたに責任はないからその責任は手放してもいいんだということを伝えてください。そのことばに救われ、安心できる子もいます。

「DV」や「デートDV」ということばを
使わずに介入できるチェックリストです。
レジリエンスのHPにも掲載されています。

◎ 支配があるかのチェックリスト

- の言うことは絶対だ
- 自分の希望を●●に伝えるのはとてもエネルギーがいる
- が帰ってくると緊張する
- を恐れている
- がいる前で電話をしたくない
- を待たせると思っている
- 自分がどう感じるかよりも●●が怒らないかが基準になっている
- の言動に怒りを感じて思っている
- たとえ間違っていると認めても、●●に同調しなくてはならない
- に自分の本音は絶対に言えない
- が怒りだすと、なんとかなだめようとしてしまう
- が機嫌が良い状態であるためにはどんなことでもすると思う
- どんなに自分が楽しんでいても●●の機嫌が悪くなるともう楽しむことはできない
- についたうそがばれるのが怖くてしょうがない

DV・デートDVだけでなく、虐待、パワーハラスメントなど、様々な傷つきが社会にはあります。傷つきからの回復には「良い人間関係・つながり」を感じられることが助けになります。

新型コロナウイルス感染拡大により、ストレスも高く、誰しも心身の調子を崩しやすい時でもあります。そのような時にも必要となるのが、「良い人間関係・つながり」です。差別のない、尊重のあるつながりが今こそ重要です。

何らかの辛い状況にある子どもたちがつながりを感じられるような安全な大人の存在が、地域にさらに増えていくことを願っています。

今回の講演が、私たち一人ひとりが今何ができるのかを、考えるきっかけになればとても嬉しいです。

このような時期ではありますが、オンラインで講演を実施してくださった滋賀県立男女共同参画センターの皆さんに心から感謝しています。

NPO法人レジリエンス 西山きつき